

# 活動紹介!

## 雅会書道教室

市の福社会館での活動から数えると、発足以来、45年近くも続いている伝統ある書道サークルです。現在は、10名程で、隔週水曜日の午前に活動をしています。

おおよそ、その日に書く題材が決まっています、お手本を横ににらみながら、どの方も作品づくりに没頭されます。中には、写真にあるような「条幅」(縦横4:1の用紙)に挑戦される方もいらっしゃいます。常時、新メンバー募集中です



## 1月の催しから

- 14(土)  
・バオバフの会 
- 15(月)  
・三村音楽コンサート  
・深なつき・葉月コンサート 
- 21(土)  
・発達凹凸ファミリーの  
幸せな暮らし 

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。

## 会館継続利用団体の皆様へ

会館では、サークル活動の様子を多くの方に知っていただくために、その内容を広報誌「かけはし」やホームページ(HP)、掲示板などに公開しています。  
毎年3月に更新の時期を迎えます。1月より受付で更新のための用紙をお配りしております。よろしくご協力をお願いいたします。

## 会館事務室から



## 今月の話題— ウサギ

2023年は卯年。干支では癸卯(みずのと)です。癸(みずのと)は雨や露、霧など大地を潤す恵みの水と新たな生命が成長し始めている状態を、卯(う)は安全、温和という意味を表しているそうです。

動物の兎と言えば、耳が長いとか、足が速いということがすぐに思い浮かびます。足が速いということでは、「脱兎のごとく」という言葉があるように、中には、時速60~80kmものスピードで走るウサギもいるそうです。また、その優しく、可愛らしい外見にもかかわらず、昔話やことわざではあまりよい役回りを得ていない場面や狡猾(ごうかつ)であるといった見方をされている場面もまま見受けられます。「因幡の白兎」や「兎と亀の話」はまさにそれです。中国の古典、韓非子(かんびし)には「狡兎三窟(ごうとさんくつ)」、史記には「狡兎(ごうと)死して走狗(そうく)煮る」とあります。「狡(ごう/きよう)」は狡(ずる)いとか狡賢いという意味です。前者は、兎は逃げる前から逃げ道をたくさん用意してうまく身を守ること。後者は、智謀の長けた敵将を狡兎に例えたもので、敵がいなくなってしまうと功臣も切り捨てられるということです。いずれにしても、なにもあえて兎を狡兎としなくてもよいと思うのですが…。

今では、愛玩動物としてすっかり定着した兎。そういえば兎は跳ねるのも大きな特徴です。皆様にとって今年一年、何事にも大きく飛躍する年でありますように…。

